



Annual Report 2019-2020

認定NPO 法人PIECES



ことばに「優しい間」を宿す

認定NPO法人
PIECES代表
小澤いぶき

目に涙をため
顔を真っ赤にして
いつもより眉が上がったあの子は
普段話す声を3くらいだとしたら10くらいのボリュームで
普段話すスピードを2くらいだとしたら9くらいのスピードで
言葉を発した。

そして、手を握りこぶしにしてわたしの方に拳を向けた。

「かんしゃく」というメガネで切り取られた
そのメガネをそっとはずしてみると
そこには一人の人の姿が浮かび上がってくる。

わたしには、その子の声がまるで「叫び」のように聞こえていたとしても
わたしには、その子の仕草がまるで「殴ろうとしていた」ように見えても
その子に何が起こっていて、本当の本当はどうしようとして、
何を考えて、何を感じていたのかの全貌は
わたしにはわからない。

だから自分のメガネで切り取る前に
一人の人として生きているその子の姿を
なんとかそのまま見つめようとする。
話を聴こうとする。

自分のメガネは、自分の経験や
価値観、そして自分の生きてきた
集団の文化や歴史から生まれた大
切な宝物でもあります。

そのメガネを大切に扱い、その
上で自分のメガネを自覚して、そ
のメガネをはずしてみても日々何か
を見つめるのは、とても難しいこ
とです。

わたしが行動を起こす時、その
背景にはどんな感情があつて、ど
んな経験が影響しているのでしょ
うか。わたしが生きてきた社会の
規範がどう影響しているのでしょ
うか。

そう問うことは、難しく、終わ
りはないけれど、今までかけてき
たメガネをかけたくなつた感情や、
経験に気づき、そっとメガネを外
そうとしてみる。そっと自分に問
うてみる。そのメガネをはずした
ら目の前のことはどんな風に自分
に映るのか。

そんな営みを日々繰り返しなが
ら紡ぐ言葉と、その言葉を受け取
る人との間には優しい間が宿るの
ではないでしょうか。

新型コロナウイルス流行を受けての 発信と取り組み

contents

1

新型コロナウイルスに関してのこころと からだのケア ～家庭や子どもの居場所などのできるケア～

URL <https://note.com/ibukiozawa/n/naa3f8ec1c922>



子どもはどんなときに不安になるの？

- ・見通しが見つからない
- ・ルーティンでやっていたことが日々変更になる
- ・突然イベントがなくなる …など

子どもにどんな関わりをしたらいいの？

- ①心と身体の変化に目を向ける
いつもと違う状態や行動に気を配る
- ②子どもに対する声かけ
子どもの感情を言葉にして受け止めてみる

contents

2

新型コロナウイルス 「からだところのワークブック」

URL <https://www.pieces.tokyo/news/2020/5/7>



猫のアルハがナビゲートする、からだやところのサイン、リラックス法、ハッピーリスト、相談先などを掲載した「からだところのワークブック」。

情報コンテンツの力で「子ども」へ安心と希望を届ける活動を展開している「NPO法人ふるすあるは」さんと協働で作成、Webサイトで公開し、ダウンロード印刷して書きこんで使っていただけるようにしました。

contents

3

とどけるプロジェクト

新型コロナウイルス感染症に関する情報を、様々な不安や困りごとのある方、情報が届きづらい方に届けるために立ち上げたプロジェクト。

URL <https://www.covid19-accessibility.com/>



このプロジェクトは新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する国内外の状況が変化する中で生まれました。小さな「助けて」の声が埋もれることなく大切にされることを願い、団体の枠を越えて、様々な分野の専門家や実践者の方々、情報へのアクセスが難しい、生活に支障があるなどの経験をしてきた方々との協働で取り組みました。

立ち上げ時からプロジェクトの事務局を担ってきましたが、COVID-19の長期的影響を踏まえて、2020年7月以降は新設された任意団体に事務局を移管し、PIECESとしての活動は終了しています。



PIECES 役員体制を刷新

ひらかれたWeの社会へ

これまでの取組みを通して、気がついたことがあります。それは、子ども
の孤立を解消していくためには、まる
で部品の欠陥や不備を交換するような
機械論的なアプローチでは根本的な解
決にはならない、ということでした。

私たちの生きる社会は、さまざまな
要素が複雑に影響しあいながら成り
立っています。一つの課題を一つの解
決策で解決しようとしても、他のところ
に歪みや矛盾が生じることが少なく
ありません。

例えば、虐待の原因は養育者だけに
あると決めつけ、養育者を責めるだけ
では、虐待という課題そのものを根本
的に解決するのは難しいですし、その
ことが新たな差別を生んでしまうおそ
れもあります。また、子どもたちを取
り巻く環境を含む社会そのものが常に
変化し続けているので、特定の課題の
解決のみに捉われてしまうと、新たに
立ち現れてきた別の課題に対応するこ
とが難しくなってしまうのです。

だからこそ私たちは、複雑な社会を
1つの有機的な存在、いわば生命体と
して捉え、一人ひとりが生きる一瞬一
瞬のなかで、自分たちの手元から社会
に関わっていきける仕組み・プロセス
のものを作っていくことが大切だと考
えました。

個人を越え、私という存在が社会
や地球環境と相互に響き合うような、

「We」の感覚をもって捉えてはじ
めて、「問題」とされていることが私
たちに与えている影響の実態に近づい
ていきます。

私たちは、一人ひとりがそのような
「We」を実感できる未来を「ひらか
れたWeの社会」と定義します。そ
のような「ひらかれたWeの社会」
の実現のためには、「市民性」醸成が
鍵になると考えています。だからこそ
私たちPIECESは、常に市民性
を意識し実践し続ける場所（コミュニ
ティ）づくりと、それを支える持続的
な経営を目指していきます。

ひらかれたweの社会をつくる市民性の3つの視点

<p>みつめる</p> <p>私たちが生きる世界を ありのままに見つめる</p>	<p>うけとる</p> <p>わたしたちの周り で起こっていること をありのままに受け取る</p>	<p>はたらきかける</p> <p>自分たちの手で 社会に対して 働きかけていく</p>
---	--	---

市民性醸成を広い 視野で、持続的に支える 経営基盤に刷新

時代を超えて、子どもを取り巻く環
境に働きかけ、市民性を発揮し続け
ていくためには、グローバルな視点や歴
史的な視点を見渡していく広い視野が
必要であると私たちは考えています。
局所的な判断に捉われるのではなく、
今見えていない誰かへの想像力を養う
必要があるからです。

市民性醸成の活動は、短期的にわか
りやすい成果が出るわけではなく、継
続的に行っていくことが重要です。そ
こで、幅広い知見を持ち、多くの社会
起業家が紡ぐ「いまこの瞬間」に関わ
る小野田峻氏、メンタルヘルス領域
で起業し、現在は幅広い領域での起
業家支援を行う荻原啓氏を理事に迎
え、市民性醸成のための広い視点を持
ちながら持続的な事業展開を目指しま
す。監事には、市民性の醸成において
土台となる「人権」を軸にビジネス支
援を行う佐藤暁子氏と、数多くの非営
利団体の経営を会計・税務面から支
えてきた長田和弘氏を迎え、健全な経
営を目指すことしました。

これまで設立初期から役員を務めて
きてくださった7名の役員の皆さん
に心からの感謝をするとともに、新生
PIECESとしての歩みを進めてい
きたいと思えます。

理事・監事新メンバー

New Members



萩原国啓

ゼロトウワン株式会社 代表取締役社長, ソーシャルアントレプレナーズアソシエーション (SEA) 代表理事, ビースマインド共同創業者

Profile

慶應大学在学中に個人・組織のメンタル面のサポートする社会企業のビースマインド(株)を創業。人と組織の「はたらくをよくする®」メンタルヘルス支援プログラムを提供するアジア最大手企業として、上場企業を中心に1000社以上の支援をするバイオニア企業に成長。2016年ゼロトウワン設立。社会インパクト起業家輩出のために経営支援、投資育成事業を展開。2018年ソーシャルアントレプレナーズアソシエーション(SEA)を社会起業家メンバーと設立、共同代表理事。ライフワークとしても業種業界問わず多くの起業家/経営者のメンター・エンジェルとして活動中。

Message

PIECESの活動に関心と尊敬の念を持ったのは、子どもが孤立しない優しい社会を創るには、子どもの周りに「優しい間」が広がる必要があり、その「優しい間」が広がるためには「市民性が醸成されること」が大切と考えているところです。人類にとって、とても根源的なテーマを大切にしていることに感銘を受けました。PIECESがこれからも志を大切に、事業としてサステナブルにやっつけていけるよう、理事としてこれからも応援し、協力していきたいです。



小野田峻

小野田高砂法律事務所 弁護士

Profile

盛岡で東日本大震災に遭遇したことをきっかけとして、東京弁護士会内有志の津波被災地訪問企画を立案し、継続的に実施。2016年11月には、ソーシャルスタートアップ向けシェアオフィス(social hive HONGO)併設の小野田高砂法律事務所を本郷三丁目にて開業(2018年7月には増床。2020年2月時点で、shHに入居している団体は19社)。支援先の団体が向き合う社会課題は、防災や救急救命、日本酒文化、シビックテックや官民連携、介護、食と演劇、子ども・若者支援や社会福祉の現場のデザイン、女性の両立不安の解消、出生前検査など多岐にわたる。法務支援を中心とするビジネス横断的支援にとどまらず、社会課題解決に関連する各種リソースを有機的に連携させることにより、広くソーシャルチェンジメーカーの多様な可能性を未来に繋げる活動を行っている。

Message

個人の変容促進と想いのバトンの継承という、社会的事業の新たな役割を体現しているPIECESだからこそ、Citizenship for Childrenプログラムの全国展開を通して、私たち自身の意識、手元から社会そのものが生まれているということ、事業活動を通して表現できると感じ、いただいた理事就任のオファーをお受けすることにしました。PIECESが広がっていくことを通じて、私たち自身の可能性が広がっていくことに、ワクワクしています。



佐藤暁子

ことのは総合法律事務所 弁護士

Profile

上智大学法学部国際関係法学科、一橋大学法科大学院卒業。International Institute of Social Studies(オランダ)開発学修士号(人権専攻)取得。2010年、名古屋大学日本法教育研究センター在カンボジアにて日本法の非常勤講師。2017年、バンコクにある国連開発計画アジア・太平洋地域事務所にてビジネスと人権プロジェクトに従事。2018年より日弁連国際室嘱託、同国際人権問題委員会及び高齢者障害者権利委員会精神保健PT幹事。バリューチェーン全体の人権デュー・デリジェンスを通じた責任あるビジネスの推進と精神科閉鎖病棟からの地域生活移行に取り組む。

Message

ビジネスと人権の文脈で言うと、企業に勤める人も一市民であり、一消費者である。けれど、ビジネスの場では、なぜかその側面がなくなり“企業の人”になって、自分と社会とのつながりがなくなってしまう。このつながりを取り戻すためにも「ひらかれたwe」の考え方が生きてくるんです。社会の「構造」にだけでなく、一人ひとりへのアプローチもしていないと、今あるギャップはなかなか埋まらない。ひらかれたweの考え方が自然に広がると良い社会になっていくんじゃないかという期待があり、そのアプローチにワクワクしています。



長田和弘

長田和弘税理士事務所

Profile

税理士法人勤務を経て2019年2月長田和弘税理士事務所を開業。中小企業・NPOに対するクラウドソフトによる会計支援、業務効率化支援を中心に実施。経営計画策定支援、資金調達支援、助成金・補助金申請、認定NPO支援などを得意とする【所属】長田和弘税理士事務所 所長 東京都中小企業診断士協会認定ソーシャルビジネス研究会 代表 一般社団法人ソーシャルビジネス・コンサルタントグループ 代表理事【保有資格】税理士、中小企業診断士、准認定ファンドレイザー

Message

PIECESは、「市民性の醸成」というところで、しっかりとつながりを広げてきた姿を、遠くからみて、共感し応援してきた存在でした。そのPIECESから、あらためて寄付者に対して団体の信頼性を高めるために、組織基盤強化を図りたいという誠実な意向をお聞きしたときに、監事としてしっかりと後方からのご協力をしたいと思いました。NPOと支援者との間のより強い信頼の繋がりがつくりに向け一緒に歩んでいきたいと思っています。PIECESを近くから応援できることになりとても楽しみです。

Citizenship for Children

2019水戸

子どもと自分にとってのより良いアクションや
あり方を探求する市民性の醸成を目指すプログラム

市民性の発揮

ストレングス・余白に目を向ける
今ここにある感情や願いを大切に
自分の価値観のメガネに気づく



地域社会を取り巻く現状として、近年、子どもの虐待や貧困、いじめなどの問題が顕在化の中で、子どもや家族の「心の孤立」をいかに防ぐかが、重要な課題となっています。ここでいう「心の孤立」とは、生きづらさや困難を抱えていても、大人や社会に助けを求めることができない、頼れない状態のことです。子どもの育ちにとって大切な、信頼できる他者の存在。たとえ心に小さなケガをしたとしても、その傷口が広がる前に癒し合える仲間の存在。そんな存在が地域や社会の中に生まれ続けていくための仕組みや文化を築いていくことが必要ではないか。

このような社会背景や課題意識を受けて、PIECESでは、2016年5月、本プログラムの前身である「コミュニティユースワーカー育成プログラム」を開始しました。約3年間、4期にわたり東京都内でプログラムを実施したのち、2019年より「Citizenship for Children」(CforC)に名称を変更し、茨城県水戸地域でのプログラムを皮切りに全国展開が始まりました。

約6か月間、12名程度のチームでおこなうプログラム

プログラムは、①専門知識を学ぶ座学講座、②子どもと関わる現場実践、③リフレクションとコミュニケーションを扱うゼミ、という3つの取り組みから構成されています。この3つのプロセスを通じて、約6か月間、12名程度のチームで対話と内省を繰り返しながら「自分だからこそできるアクション」を問うていき、プログラム修了後の主体的な社会への参画を促していきます。同じ地域で活動するチームメンバーの存在があることで、相互の支え合いや学びあいが生まれていました。

2019実施内容

座学

実践者からマインドセットや知識を学ぶ

2019年7月

Day1

Day2

Day4

Day3

Day5

特別合宿

2019年12月

ふりかえり会

Day6

ゼミ

月2-3時間の対話とワーク、リフレクションを行う

チームビルディングと
目標づくり

市民性と「問」

自身の価値観を
深掘る

地域の社会資源と
市民性

子どもと自分の
間を創造する

「私」から
「私たち」へ

子どもにとって本当に大切なこととは

実践

関心ある実践現場へボランティアとして参加し、子どもと関わる



月2~4回ほどの
子どもたちとの関わり

インタビューから見てきた参加者1人ひとりの変化

CforCでは、市民である自分を客観視する、子どもも自分も、両者を大切にするとはどういうことかを問う視点をもつなどの「意識」が根付くことや、具体的な「マインドセット」が子どもの生活する日常の中に生まれ続けていくことを目的としています。そういった意識・マインドセットの変容を測定するために、参加者に対するインタビュー調査を実施しました。ここでは、その結果の中の一部をご紹介します。

参加者の声

役割としての関わりから、自分としての関わりへ

仕事と同じ感覚で役割をもって関わんなきゃいけないよなって思いが強かったんですけど。(中略)リフレクションとかをやろうと思うと、子どものことをよく見るようになるじゃないですか。そうしてくると、全然(子どもたちはそれを)求めてないなって思って。もう少し素の自分のほうが、この子たちには接しやすいというか。そっちのほうが、求められやすいのかなと思って。

自身の価値観に気づく

子どもたちを相手にする前に自分のことを理解していないとストレスを感じたり、自分の価値観を押し付けてしまったりすることを学んだ。このままじゃいけないって思っていた部分があったが、それを受け入れられたのが大きな収穫だった。

参加者が新たに始めた 取り組みと行動

プロジェクト化

- ・地域の居場所づくり
- ・今ある場所の「居場所化」

発信

- ・楽しさ起点の発信と巻き込み
- ・周囲へプログラムを紹介
- ・新しい仕事の進め方を伝えた

日常への応用

- ・同僚の悩み相談にのる
- ・仕事のやり方の見直し

自身のマインドセットと行動に関する 参加者の変化

自己意識にまつわる変化

- ・自身の価値観に気づく
- ・ありのままであることを肯定できるようになる

市民としての関わりにまつわる変化

- ・役割としての関わりから自分としての関わりへ
- ・サポートするのではなくエンパワーする

子どもや他者の言動に対する想像力や 視点にまつわる変化

- ・解釈せずに受け止める
- ・言動・行動の背景にある願いに気づく



真家知子さん CforC2019水戸 参加者

職場のコンビニエンスストアに 地域の子どもが立ち寄れる居場所をつくった

CforCの講座を受講していく中で、寂しさを感じる時に自分の居場所が身近にたくさんあると良いなと考えるようになりました。

そこで、「今、ある場所を開放してみよう!」と、経営しているコンビニの一角を居場所として設置しました。日頃、お店では地域ならではの温かいつながりを感じる一方、寂しさを抱えているのかなと思われるお子さんや、今日は元気がないのかな?と感じる常連さんを見かけることがあり、とても気になっていました。近年では、防犯や災害時に社会インフラとしての役割を担っているコンビニですが、近くて便利な利点を生かして、店内の一角を居場所や拠点として開放し、地域資源を利用しながら体験を共有できる場所としても活用していきたいと考えています。ひと昔前の駄菓子屋さんのように地元の子どもたちが気軽に来られるこころの居場所を、そして大好きな街を作っていくことを未来に描き運営中です。



Citizenship for Children 2020

3つのコースで市民性の輪、広がる

昨年度から全国展開を始めたCitizenship for Children (CforC)。

2020年度は、従来のプログラムを「探求コース」と位置付けた上で、

「基礎知識コース」や「プロジェクトコース」を新設し、

「孤立した子どもたち」と優しい関係性を紡げる大人を増やすための活動を一気に加速させました。

プロジェクトコース

アイデアを形にする



研修や対話セッションを重ねながら、地域のなかで自分が実践したいアイデアを具体的な形にするためのコース。探求コースの修了生が対象で、今期は合計8チームが新規プロジェクトの立ち上げに取り組んでいます。

- ✓ それぞれの地域で、自分にできることを始める
- ✓ チームをつくり、アイデアを形にする

探求コース

実践と学びを行き来する



子どもと自分にとって優しい「間」を生むための約半年間のコース。講座に加えて、仲間と一緒に市民性を探求するゼミや、子どもとの関わりを振り返るリフレクションを実施。今期は水戸、奈良、一般（地域横断型）の3クラスを用意し、合計34名が受講しました。

- ✓ 講座に加えて、ゼミやリフレクションを通じて子どもと自分とのよい間について経験学習する
- ✓ 自分と子ども、地域にとってよりよい関わり方を探求する

基礎知識コース

講座で学ぶ



動画の視聴と質疑応答を通じて、「子どもの発達とこころのケア」「子どもにやさしいまちづくり」など基礎的な知識やマインドセットを体系的に学ぶことができるコース。今期は合計64名が受講しました。

- ✓ 子どもと接するときの知識やマインドセットを学ぶ
- ✓ 月1回、60～90分程度のオンライン講座を配信（全6回）

2020年に始めた4つの取り組みをご紹介します



オンライン化で ニューノーマルに 対応

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今期のCforCは原則オンラインで行いました。探求コースではZoomやGoogle Classroomなどのオンラインツールを駆使して、離れた場所においても仲間と学び合える環境を整えました。基礎知識コースではeラーニングを取り入れることで、一定期間内ならいつでも何度でも講座を受講できるという思いがけないメリットも。参加者からは「普段のコミュニケーションよりも深い共感や交流が得られた」といった感想が寄せられました。



奈良でLiving in Peaceとの 協業をスタート

「機会の平等を通じた貧困削減」を目指す認定NPO法人Living in Peace (LIP)さんと共同で、LIPさんが運営する子ども食堂「りっぶキッチン永和町」がある奈良県大和高田市周辺の居住者向けにCforCを展開しました。10月には、りっぶキッチンのお手伝いをしながら子どもと触れ合う現場実践を行い、奈良クラス全12名のうち9名が参加。CforCでは今後も、各地のパートナーと連携しながら優しい「間」を紡ぐ市民を増やす活動を丁寧に手がけていきます。



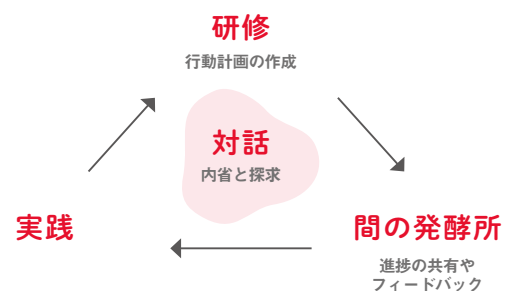
「地域横断型」の 探求コースを導入

プログラムのオンライン化を受けて、居住地域を問わず全国から参加できる「一般クラス」を増設しました。東京、大阪、高知、大分などさまざまなエリアに住む13名が、それぞれの地域で優しい「間」をつくるための市民性を探求し、培っていきました。参加者からは「遠隔地の方々とながれるのはオンラインの醍醐味だと思いました」「CforCで出会った人たちとのつながりを、今後の地域活動にどう生かせるか考えたいです」といった声が聞かれました。



アイデアを形にする プロジェクトコース を開始

子どもたちの周りに優しい「間」があふれる地域をつくるには、私たち一人ひとりが優しい「間」をつくる主体になることが大切だと感じています。そこで今期は探求コース修了生を対象に、新たなプロジェクトを立ち上げて自分なりのアクションを探求する「プロジェクトコース」を新設しました。必要な知識や考え方を学ぶ1回の「研修」と、対話を通じて内省と探求を深める「間の発酵所」を通じて、社会と響き合っていることを実感できる取り組みを広げていきます。



WHAT IS " project HOME "



安心して
休息できる



未来について
ゆっくり考えられる



つらくなったら
またSOSを出せる

ネットカフェなどの不安定な居場所を転々としている孤立した妊婦さんたちが「いつでもおいで」と受け入れられる、いつでも立ち寄って相談できる。そんな安心で安全な「HOME」をつくるプロジェクトです。

New Project

困っている若年妊婦に 「いつでもおいで」と 言えるHOMEを

ピッコラーレさんと組織の枠を超えて、
居場所を失った妊婦さんに
「いつでもおいで」と言える、安心で安全な
HOMEと思える場所を作り始めました。



ピッコラーレさんと2017年から2年以上に渡って構想づくりを進めてきました。クラウドファンディングの開始にあたってピッコラーレの皆さんと。



妊婦さんが安心して宿泊できる2部屋の個室を整え、利用者の滞りも始まっています。



PIECESはNPO法人ピッコラーレと協働で、2020年4月に東京都豊島区にある一軒家で最初の「HOME」を始めました。

いつでも開いていて、お金の心配をせずに利用でき、安全な空間で身体を休めながら、ここにいていいと思える場所。そこには助産師・社会福祉士などの知識・経験のあるスタッフと「おかえり」と見守り、彼女の語りに耳を傾ける誰かがいて、一緒にこれからどうするかを考えられる。そんな場所を目指して「project HOME」は始まりました。

HOMEが従来のシェルター・施設と異なるのは地域に開かれているということです。シェルターや支援施設は、虐待やDVなどの背景を持つ方が入居することもあるため場所も公表されず、所持品の持ち込みが制限されているところもあります。こうした施設が必要一方で、HOMEではオープンで社会と安全につながれる場所を目指しています。

私たちPIECESが独自プログラムで取り組んできた「市民性の醸成」を通して、今後は地域の人たちや連携先も巻き込みながら、大切にしたい価値観や関わり方について考えるワークシヨップなどを実施していきます。信頼感、安心感をつくっていくために必要なのは、時間をかけて丁寧に関わり「あなたのことが大事だ」と伝えること。必ずしも専門家である必要はありません。

ピッコラーレさんと共に、活動を通して温かいまなざしを持った地域をつくっていきます。

クラウドファンディング

**ご支援
ありがとう
ございました**

期間:2020年3月30日~5月29日

目標金額

5,000,000円に対して

7,750,000円

640人のみなさまありがとうございました!

これからも活動は続けていきますのでご支援・ご協力のほどよろしく
お願いいたします。



応援のメッセージが届いています

小学校の友だちに、施設で育った子が一人いました。彼は何かとすぐ手をあげる子でしたが、人一倍責任感が強く、何か熱いものを胸に持っている、そんな子だったと記憶しています。僕が引越した関係でその子との繋がりも切れてしまいましたが、最近になって人づてに近況を聞くと、「警察のお世話になってしまっている」と。

連絡先も分からず、僕自身も海外で暮らすようになったことで会うことはできません。

ただ、ちょっと粗暴だったけど、一緒に遊んだ幼い日々を思い出すと「どうにか彼の助けになれなかったのか」と、ふと思う瞬間があります。彼がそうってしまったように、誰も市民社会から取りこぼさない。PIECESが行っている活動には、そのような意義を僕は強く感じています。

僕の所属するJIM-NETは、イラクで治療が長期化する小児がんの子どもたちを社会から取りこぼさない活動を続けていますが、日本の社会で子どもたちの声を拾い上げ、孤りにしない社会を目指しているPIECESの活動には心から共感し、応援しています。



牧野 アンドレ André Makino
JIM-NET(日本イラク医療支援ネットワーク)
イラク駐在員

子供の孤立を防ぐ。そのためには、大人が「大人で居る」ことが必要です。だけど、大人で居続けるのは本当に大変なことです。大人もまた孤立すると、大人で居られなくなってしまいますから。

したがって、ケアする大人をケアする大人が必要となります。PIECESの活動は、そのようなケアする人をケアする活動だと思っています。すると、ケアする人をケアする活動をケアすることも必要になっていきます。

これは無限後退かもしれないのですが、そういうものだと思うのです。そうやって私たちは社会を carousel 回しているのではないかと。

この応援メッセージがその一助になればと願っています。



東畑 開人 Kaito Touhata
臨床心理士

PIECESさんを初めて知ったのは、自分が出産した直後でした。実際に子どもを育てて、その大変さを実感している中で、私が住んでいる地域で子どもの虐待死事件が起きました。同じ市内で子どもさんが亡くなられたことが本当に悲しく、また同時に同じ地域に住んでいる自分に何かできることはなかったのか…と考えさせられました。

PIECESさんは、子どもに寄り添う大人を増やし、地域で子どもをサポートしていこうとされていて、とても共感します。

私が所属するかものはプロジェクトでも、2020年秋から日本での活動を少しずつ開始しています。

ご活動を、同じ業界にいる者として応援しております。



村田 早耶香 Sayaka Murata
NPO法人かものはプロジェクト

私が「こどものいのちはこどものもの」の活動で、児童虐待防止の取り組みを始めて2年が経過しました。

2018年に衝撃的だった、目黒区の5歳の女の子が虐待によって命を落とすという痛ましい事件が起きました。「このまま、いつものように悲しいニュースとして、通り過ぎていいのか」と声を上げた友人の犬山紙子さんに心から賛同しました。

その後、チームとして社会的養護に携わる方々を訪問。児童養護施設や自立支援ホームの現場で従事されている方々、里親をされている方々からお話を聞きました。

そこで感じたのは、なによりもマンパワーが大切なこと。携わる方々がそれぞれ、愛情や使命、それでも直面してしまう課題についてお話くださったことが胸に残っています。

私も足を運ぶまでは、遠い世界のことと感じていたことが、ドアを開ければすぐ隣にあることを実感しました。だから私自身にも責任があります。最初はそんな責任感から少しずつ始めた寄付活動ですが、ある日、悲しいニュースに傷ついた自分の心を癒してくれることができました。何もできてなんかなくないよ、と。

私もこの社会の一員として、支えたり、支えられたりしながら、輪の中にいるのだな、と改めて実感する日々です。



福田 萌 Moe Fukuda
タレント

REFRAM LAB

【リフレームラボ】

時間や空間を超えて、この世界にいる さまざまな存在・生命と共に在ることへの 想像力を広げていくプロジェクト

私たちは、それぞれが様々に影響を及ぼし合い存在しています。遠くにいるまだ見ぬものたちも、隣にいるあの人も、自分も、この世界を共にしています。また、私たちが暮らす街の中にも、いまを生きる人間や他種の生命、機械、そしてもう存在していなくとも、幾種もの生命たちの無数の記憶が刻まれています。こうしたあらゆる存在への想像力を拡張し、問いを広げ、未来のかけらを見つめていく。そんな冒険を、子どもたちと、子どもに関わる一人ひとりと共にしていきたい。そんな願いからこのプロジェクトは生まれました。



プロジェクトメンバー

- 小澤いぶき 児童精神科医／NPO法人PIECES代表
塚田有那 キュレーター／一般社団法人Whole Universe代表
清水聡美 企画制作・コーディネーター
富樫多紀 カルチュラル エducーター
和田夏実 手話通訳士
岡本真梨子 カウンセラー・サイコエドゥケーター
古屋遥 演出家・クリエイティブディレクター

パートナー

- ドミニク・チェン
長谷川愛
山峰潤也
桂大介
瀬谷ルミ子

2020年テーマ

系系 ミエナイモノとあそぶ Immersive Experience 夢夢

新型コロナウイルスの世界的パンデミックをはじめ、いま、世界は激動の中にあります。ここ日本でも、移民・難民の方への抑圧や権利の剥奪が起き、孤立する子どもたちがいます。これらのあらゆる事象は、私たちの世界で起きています。そして過去から引き継いだバトンが、私たちの「今」のふるまいによって、未来の子どもたちへと受け継がれていきます。「目に映るもの」だけで考えるのではなく、かつて存在していた生命や非生命、そして人の痛みや優しさといった“ミエナイモノ”への気配を感じ、想像し、それぞれの多様な自然を歩き来していく。これからの社会を手探りで紡ぎだしていくそんなプロセスを、子どもの頃、誰もが持っていた「あそび」を手がかりにつくっていけないかと考え、活動を作り上げていきました。

*あそび(大和言葉) … 異界とつながること *遊 … 「神が自由に行動する」から転じて「人が心のおもむくままに楽しむ」

プログラム実施までの流れ

アートプログラムの企画・設計

大切にしている「問い」

1. この社会の痛み、レジリエンスはどこから生まれているか？
2. 多様な存在と共にある未来とは、どんな風景なのか？

子ども研究員との実践

大切にしている「視点」

1. 人間以外のあらゆる生命・存在と、同じ地平に立ちみる
2. 自分の身体感覚を使って、見えない気配を感じてみる
3. 歴史、神話、未来…「いま・ここ」ではない、異なる時間軸を想像してみる
4. それぞれが共に在る新たな未来の風景を描いていく

Lasermice 研究所ワークショップ

子ども研究員とつくる新たな生命

アーティスト・菅野創さんが開発した群ロボット《Lasermice (レーザーマウス)》と、子ども研究員たちとのコラボレーションによる遠隔ワークショップを開催。郵送されたLasermice から、子どもたちがオリジナルのマウスを作成しました。

4.26-5.2
5.23-5.31



さわる・ふれるの研究所

ハプティック星から届いた手紙

「触覚」をテーマとしたワークショップ。全身でさわり心地を感じて遊び、自分の気持ちを触覚で表現する「さわれる日記」や「さわれる手紙」を作りました。

8.29-9.12

10.3-10.18



イライラの前にぐしゃぐしゃした気持ちがあつて、それってうまく言えない。言えないし誰に話していいかもわからなくてちょっと寂しい。これを作ってぎゅっとして一人じゃないなって思った。

これなら耳が聞こえなくても目が見えなくても一緒に遊べるね！



こども研究員の声

いろんな気持ちがあつて、みんな気持ちの表現が違って面白い

Reframe LabのWEBサイトがオープンします！

今後も開催していくワークショップの様子や、オルタナティブな社会・世界を想像するガイドとして制作する冊子や映像コンテンツなど、プロジェクトの情報は新しく制作したWEBサイトに掲載していきますので、ぜひご覧ください。



2019.11.19

子どもたちを守る仕事とそれを取り巻く社会の仕組み

認定NPO法人
かものはしプロジェクト

コラボ

2019.11.20

子どもの孤独にどう向き合うか

主催:東新宿SHIP

登壇

2019.11.29

漂流妊婦のための居場所づくり「project HOME」発表イベント!

NPO法人ピッコラーレ

コラボ

2020.01.19

Hello! PIECES!
マンスリーサポーター限定
ランチ会

2020.01.28

LITALICO研究所OPEN
LAB #7 コミュニティは誰を救うのか 関係の網の目から希望を紡ぐ

主催:LITALICO 研究所

登壇

2020.02.03

「違いが格差を生むのではなく、豊かさを生む社会へ」

一般社団法人 kuriya

コラボ

2020.03.01

「学習する組織」から学ぶ
「学習するコミュニティ」の
リーダーシップ

講師:福谷彰鴻

2020.04.13

◎ちょっとほっと時間◎ 子どもと保護者の「どうしよう」を一緒に考える。

ゲスト:紫原明子

2020.04.16

すでに、そこにある希望を、わたしたちが思い出すために～「あいだ」を結ぶ「インターミディエーター」の役割～

主催:インターミディエーター

協働者:鈴木悠平、横山北斗

登壇

活動説明会 (計8回)



Event Calendar

2019/11-2020/10

2020.05.02

Lasermice 研究所ワークショップ・子ども研究員とつくる新たな生命

2020.05.12

必要な人に、必要な情報を、人から人へのリレー #とどプロ

協働者:とどけるプロジェクト 鈴木悠平

2020.05.31

Lasermice 研究所ワークショップ・子ども研究員とつくる新たな生命

2020.05.30

Hello! PIECES! マンスリーサポーター 限定交流会

2020.06.21_2020.07.31

あなたも子どもが孤立しない未来をつくるピースにPIECESメイト100人募集 寄付キャンペーン2020



Facebook Live×6

2020.06.21

PIECES アニバーサリーイベント2020 | 子どもとの優しい間があふれる「ひらかれたweの社会」にむけて



2020.06.07

子どものあそびや行動から紐解く、こころのケア
～痛みや傷が深まる前に、わたしたちにできること～

2020.08.09

未来をつくるPIECESメイト★Welcome Party! メイトと語る #わたしとPIECES

2020.09.27

Piece for Peace～世界の子どもたちと、共に育む未来に向けて～Peace Day 2020 4団体合同企画

NPO法人JIM NET

コラボ

認定NPO法人国境なき子どもたち

認定NPO法人Reach Alternatives

NPO法人Dialogue for People

PUBLIC RELATIONS AND FUNDRAISING

広報ファンドレイズの発信について

全ての経験者の尊厳を大切にすること

誰もが何かしらの経験(例えばそれは暴力かもしれないし、人間関係の不和かもしれません)を持っていて、その経験と共に生きています。私たちが発信するファンドレイズに関するメッセージを見たときに、その受け取り手や経験者がなにを感じるのかに想像力を持つこと、ひいては全ての経験者の尊厳を大切にすることを大事にします。

藤田奈津子・若林碧子
(PIECES 広報ファンドレイズ担当)

「伝わりやすさ」と「伝えやすさ」を混同しない

受け手にとってわかりやすい(伝わりやすい)メッセージと、私たちが伝えやすいメッセージは別物として考えます。例えば、多くの人に伝わりやすいように子どもたちが語った物語を勝手に大人のための物語として装飾したり、特定の感情を起こすための悲劇の物語として消費したりすることは「伝えやすさ」のためにやっていることであって、「伝わりやすさ」のためではありません。また、「伝わりやすさ(わかりやすさ)」を重視するあまりに、偏見を強化させたり、経験者の物語を消費させたりしてしまうことも起こり得ることで、そこで私たちは伝えやすい物語を多用するのではなく、左記1を守った上でそれをわかりやすく整えることを重視していきます。

私たちのアウトプットでラベリングを強化していないか問う

経験者の可能性を制限していないか、偏見を強化する言葉を用いていないか、アウトプットの前に確認することを心がけます。例えば、受動的 / 能動的な言葉は、立場の非対称性や優位性を強調する場合があります。これは「被支援者」という言葉が無意識のうちに支援者と被支援者の上下関係を強化している場合がある、といったことです。また、起きている出来事に対して、受動的な表現をとると、そのひとを「力がない人」として想起させてしまうこともあります。文脈によってはその言葉を適切に扱うこともできれば、知らずの間に偏ったイメージや思い込みを強化させることになりうると意識して問い直します。

PIECES POLICIES

PIECES 情報発信 ポリシー

グラフィックデザインについて

自分の制作物が誰かを傷つける可能性があることに自覚的である

グラフィックデザインに限らず、物を作りアウトプットするための手法は近年ますます開かれたものとなり、特別な教育を受けなくとも多くの人々がものづくりに関われるようになりました。しかし「どれだけ拡散されたか、インパクトを生んだか」という成果や、デザイナー自身の働き方・キャリア形成について盛んに語られる一方で、そのグラフィックが持つ社会への影響力や人々の多様性が排除されてしまう可能性についてデザイナー同士で語られる機会は少ないように思います。PIECESが制作する上では、用いるビジュアルモチーフ・記号が些細なものであっても、もたらす意味をなるべく多角的な視点から考えることを意識しています。

「受け手の気持ち」を制作者の視点で規定しない

特に福祉や医療で用いられるグラフィックデザインに対して「○○な気持ちになってほしい」と願いのような表現で受け手の気持ちを規定されるケースを私は何度か目にしてきました。(例えば「困っている人に温かい気持ちになってほしいため虹のモチーフを用いる」など)しかし「温かい気持ちになってほしい」という制作者の願いには「困っている人は気持ちが温かくない」という仮定が存在している可能性があります。またグラフィックデザインが本来果たすべき情報伝達の機能という点からも、制作の初段階から受け手の気持ちを規定することはあまり本質的ではありません。「制作の目的・意図」を明確にした上で「どんな表現でアフォードできるか」を考える。作者の願いと制作意図を混同しないために、私たちはその制作プロセスを大切にしています。

ユーザビリティを考えることは「美しさ」の一部と考える

情報の見やすさ・読みやすさを守ることと美しいグラフィックデザインを作ることはトレードオフでも、矛盾することでもありません。私たちは特性を持つ方など誰かにとって分かりにくい表現方法を用いることは「ユーザビリティ観点が足りていない」のではなく、美しい制作姿勢ではないのだと考えています。

長谷川真澄
(PIECES デザイナー)

活動計算書

2019年11月1日から2020年10月31日まで

(単位: 円)

科目		金額			
経常収益	1 受取寄付金	受取寄付金	39,116,610	39,116,610	A
	2 受取助成金等	受取民間助成金	18,066,200	18,066,200	B
	3 事業収益	人的ネットワーク醸成	819,020		
		啓発・普及収益	776,300		
		研修収益	1,941,948	3,537,268	
4 その他収益	受取利息	86	86		
経常収益計				60,720,164	C
経常費用	1 事業費				
	人件費	役員報酬	9,367,500	D	
		給料手当	0		
		法定福利費	1,054,403		
	人件費計	10,421,903			
	その他経費	業務委託費	5,091,336	E	
		謝金	3,194,811	F	
		印刷製本費	2,156		
		会議費	10,495		
		交際費	16,388		
		旅費交通費	500,304		
		通信運搬費	67,580		
		消耗品費	65,779		
		地代家賃	1,020,257		
		支払手数料	133,834		
		新聞図書費	3,300		
		その他経費計	10,106,240		
		事業費計			20,528,143
		2 管理費			
	人件費	役員報酬	1,937,500	G	
		法定福利費	218,925		
	人件費計	2,156,425			
	その他経費	業務委託費	1,199,000	H	
		謝金	471,615		
		会議費	45,014		
		旅費交通費	53,616		
		通信運搬費	135,819		
消耗品費		30,800			
地代家賃		299,743			
租税公課		600			
支払手数料		780,803			
広告宣伝費		135,603			
その他経費計	3,152,613				
管理費計			5,309,038		
経常費用計				25,837,181	I
当期正味財産増減額				34,882,983	
前期繰越正味財産額				2,480,336	
次期繰越正味財産額				37,363,319	J

A PIECES メイト (継続寄付者)の増加、法人寄付の増加により、前期比30,780,700 円の増収となりました。内訳は個人寄付 :8,409,942 円、法人寄付等 :30,706,668 円。

C 前期比では、47,276,397 円の増収です。コロナ禍で停止してしまったご寄付もありましたが、個人寄付、法人寄付の増加に支えられた1年となりました。

E 前年比3,270,311 円の増額ですが、今期加わったスタッフが主に業務委託での勤務形態を取っていることによるものです。

G 日常の管理運営に携わる理事メンバーへの報酬額です。

I 前期比では、6,100,421 円の増額です。コロナ禍で事業スケジュールが後ろ倒しになっている関係で、経常収益の伸びに比すと事業規模の伸びは抑えられています。それでも前年比で約30% 事業を拡大することができました。

B 今期は事業活動への助成4本、組織基盤強化への助成1本の、合計5本の助成金をいただきました。

D 日常の事業運営に携わる理事メンバーへの報酬額です。

F コロナ禍で立ち上げた「とどけるプロジェクト」に協力いただいた専門家や運営チームへの謝金等が加わり、前期よりも増額しています。

H 広報や総務、経理事務に携わるスタッフへの業務委託費などが含まれています。

J 例年以上に先行きが見通しにくい状況ではありますが、今期の剰余金を有効に活用して、来期はより一層多くの人に事業活動を届けられるように、取り組んでいきます。

江澤さんはPIECESが2018年から実施していたコミュニティユースワーカー育成プログラムの4期生として活動されていましたが、当時活動していたときは、自身の中で学びや変化がありましたか？

合った言葉の中でも強く印象に残っています。

それからしばらく時間が経って、PIECESメイトとして参加いただきました。PIECESメイトになるきっかけ等は何かありましたか？

当初は専門職として働いていくことを見据えていたので、スキルアップを期待していました。でも活動を続ける中で「市民性」というキーワードに出合っ。例えば子どもと一緒に遊んだり、ただ一緒に過ごしたり。想像していたスキルとは違う関係性の大切さを学びました。

それまでは、子どもたちを第一に考えすぎていて、「自分の気持ちはどうか」というところに目を向けたことがありませんでした。でも、人と人との関わりだから、自分のことも大切にしたい。

専門性を持たなきゃと構えるのではなく、私自身も地域の一部として、肩肘張らずにこれからは何か関わっていきたい。「それも大切な市民性のひとつ」ということが、PIECESで出

ありのままの自分を受け入れてくれる。誰にとっても「居場所」がある。そんな社会になったらいいな、という思いは以前から変わっていません。そしてPIECESもそんな社会に向けて活動をしていると思っています。これからはPIECESにも、PIECESが関わる地域の人々にも、直接会うわけではないけれど、そんな社会を目指していること、「あなたのこと大切に思っているよ」という思いを伝えたくて。

「私の思いの分までおねがいします」と託すつもりでPIECESメイトになることを決めました。

PIECESメイトになったから、普段の活動については何を通して見ていたか？

*2020年から
寄付者の呼び名が
「PIECESメイト」になりました！

PIECESメイト インタビュー

私たちからの一方的な発信だけでなく、PIECESメイトの「思い」や「願い」をもっと大切にしたい。そこで、PIECESメイトをゲストに迎え、社会、そしてPIECESへどんな期待や願いがあるのかを語っていただきました。

今回のゲスト

江澤 萌さん
2018年に展開していたプログラムの元4期生であり2020年からはPIECESメイト(寄付者)で現在はこども園に勤務



少し時間が空いたときにSNSなどで見えています。最近の発信だとProject HOME(※p10を参照)の活動が魅力的だなと思って見えていました。子どもの貧困や孤立の背景にはいろいろな課題がある。でも、その課題の対処だけじゃなくて、予防的にも取り組んでいるのが素敵だなあ……と。

ありがとうございます。確かに、PIECESは社会課題を構造的に捉えて活動している、いろいろなプロジェクトが生まれていますよね。その一方で、活動内容や思いが伝わりにくいのでは？と発信の仕方を試行錯誤しているのですが……普段の発信についてどのよう感じますか？

最近ではテキストだけではなくFace book Liveなどもやっていて、発信力があってすごいと思います。文章を読むだけでは内容がなかなか分かりにくいこともあるけれど、オンラインライブでのメンバー間の会話から生まれた言葉を通して、内容

がすっと腑に落ちることもよくあります。

江澤さんがPIECESメイトとして、今後期待することや要望などはありますか？

まずはNPO法人としてこのまま続いてほしいです。活動についても、更に期待するというよりは、今のような活動を今後も期待しています。

ただ、今はSNSなどの発信を見ていると、かつちりした内容が多いかもしれませぬ。私自身、コミュニティユースワーカーとして活動していたときの体験はとても温かいものでした。プライバシーの問題もあって難しいとは思いますが、実際の現場の風景や、どういう地域の人たちと関わっているのか。現場の感情や喜びが伝わってくるようなNPOなどの発信をいつも楽しんで見ているので、そういう発信があるとよりPIECESを身近に感じられるかなあと思います。

大きく輪が ひろがった1年

継続寄付者 112名から
PIECESメイト **339名** *2021年1月時点

単発での寄付 **317名**

新型コロナウイルス感染症の影響が広がる中、今期も歩みを止めずに活動を続け、変化する社会に対して新たな取り組みもスタートできたのは、寄付を通して共に活動に携わってくださった皆さんのおかげです。このような環境下でより一層、お一人おひとりの存在を心強く感じています。

私たちは、PIECESメイトや寄付者の皆さんと、寄付する一寄付されるという関係を越えて、共にありたいと願っています。

子どもたちの暮らしに優しい間を紡いでいく皆さんもどうかお身体を大切にしてくださいませ。

これからも「優しい間」を共にひろげる仲間として、どうぞよろしくをお願いいたします。

企業・団体様からの寄付実績

敬称略、五十音順

一般社団法人あおい福祉AI研究所
ゴールドマン・サックス証券株式会社
株式会社ダントラスト
日本ユニシスグループ 社会貢献クラブ
「ユニハート」/日本ユニシス株式会社
吉本興業株式会社
FITチャリティ・ラン
RITA GROUP など多数

助成実績

敬称略、五十音順

笠原健治/株式会社ミクシィ/NPO
法人エティック
ゴールドマン・サックス証券株式会社
/パブリックリソース財団
株式会社大和証券グループ本社/パ
ブリックリソース財団
パナソニック株式会社/市民社会創
造ファンド
READYFOR株式会社/東京コミュニ
ティー財団
Water Dragon Foundation

継続寄付のおねがい

より多くの方と
優しい間を生み出せる
仕掛けをつくります！

さらなる活動の発展のために、毎月の継続的な寄付で関わる「PIECESメイト」も引き続き募集しています。これまで大切に紡いできた子どもたちとの優しい間をこれからも、そしてもっと遠くまでひろげたい。大切な一歩をあなたと共に踏み出せたら嬉しいです。

5周年に向けて
優しいつながりを共に広げる500人の
PIECESメイトを募集しています

<https://www.pieces.tokyo/donation>



Member Introductions

As of 2020

2020年の新メンバー



CforC 運営スタッフ
瀬戸久美子 Kumiko Seto

編集者をしながら大学院でICT・メディアの研究を行う。PIECESではCforC運営スタッフとして、奈良の「Citizenship for Children」プログラムの運営などに参画。



CforC 運営スタッフ
佐藤麻衣 Mai Sato

認可保育園の運営会社で勤務しながら、長年継続して関わるNGOの役員に従事。その後青年海外協力隊でキルギスへ。地域コミュニティや子どもの居場所づくりに関心があり、PIECESに出会う。現在CforC運営スタッフとして参画。



バックオフィサー
片山 峻 Takashi Katayama

地方バス会社の観光促進事業担当、中間支援NPOの事務局長を経てフリーに。NPO・ソーシャルビジネス専門のバックオフィサーとして、「実効性」と「持続性」両方を向上させる仕組みづくりが主なテーマ。



CforC 運営スタッフ
栗野紗也華 Sayaka Kurino

NPOや任意団体にボランティアとして子ども・親子の場づくりやイベントに参加。大学卒業後は認可外保育園で働きながら、NPOや大学のゼミの運営に携わる。その後、起業家のサポートや数千人規模のイベントの運営補佐も行い、PIECESではCforC運営メンバーとして携わる。



小澤 いぶき
代表理事
児童精神科医 / Founder



青木 翔子
理事



斎 典道
理事 / 社会福祉士



藤田 奈津子
PR
コミュニケーター



若林 碧子
広報ファンドレイズ



長谷川 真澄
デザイナー



PIECESまきばメンバー

PIECESの活動はメンバーだけでなく、様々なプロボノ・インターンメンバー(通称:まきば)によって支えられています。まきばメンバーのこの先の活躍にも、ぜひご注目ください。

採用情報

Employment information

プログラム拡大の
基盤をつくる
ファンドレイジング
スタッフを募集!

- ヒアリングを通じたソリューションの企画/提案
- 新規獲得のための新しい施策の企画及び実行
- マーケティングと連携した各種KPIの構築・改善
- ITツールを活用したセールス体制の構築

企業や団体など法人向けに、PIECESの活動を広く広めていただきながらファンドレイジング活動を担って頂ける方を募集します。

そのほか詳細については下記メールアドレス宛にお問い合わせください

staff@pieces.tokyo

団体名	認定 NPO 法人 PIECES
住所	〒113-0033 東京都文京区本郷3-40-10三翔ビル本郷4F 小野田高砂法律事務所内 social hive HONGO
Email	info@pieces.tokyo
設立日	2016年6月22日
Web サイト	https://www.pieces.tokyo/

